

2019年度第2四半期 決算説明会

東ソー株式会社
2019年11月8日

目次

1. 2019年度の業績動向
2. 設備投資・研究開発の状況
3. 事業戦略について
4. 株主還元

1. 2019年度の業績動向

1-1. 2019年度上期連結業績

〈業績予想比較〉

- コモディティ製品の需要停滞による海外市況下落
- スペシャルティ事業は石英ガラス製品等の製品需要停滞

			(億円)		
			2019年度 上期予想	2019年度 上期実績	増減
売	上	高	4,200	3,964	▲236
営	業	利 益	420	404	▲16
経	常	利 益	460	419	▲41
純	利	益	310	268	▲42
前提	ドル	円/\$	110.0	108.6	▲1.4
	ユーロ	円/€	125.0	121.4	▲3.6
	ナフサ	円/KL	46,000	42,750	▲3,250

1-2. 2019年度上期事業分野別実績

〈業績予想比較〉

- コモディティ : 苛性ソーダ・MDIの海外市況下落により減益
- スペシャルティ : 石英ガラス製品等の需要停滞により減益

(億円)

		2019年度 上期予想	2019年度 上期実績	増減
売上高	コモディティ	2,455	2,310	▲145
	スペシャルティ	1,054	942	▲112
	エンジン他	692	712	+20
	合計	4,200	3,964	▲236
営業利益／率	コモディティ	209 / 8.5%	165 / 7.2%	▲44 / ▲1.3%
	スペシャルティ	176 / 16.7%	154 / 16.3%	▲22 / ▲0.4%
	エンジン他	35 / 5.1%	85 / 11.9%	+50 / +6.8%
	合計	420 / 10.0%	404 / 10.2%	▲16 / +0.2%

1-3. 2019年度上期実績 / コモディティ

《クロル・アルカリ》

アジアでの需要停滞により苛性ソーダ、MDIの海外市況が下落。原燃料価格は下落したが、製品市況下落による利益減が大きく営業利益減少。

《石油化学》

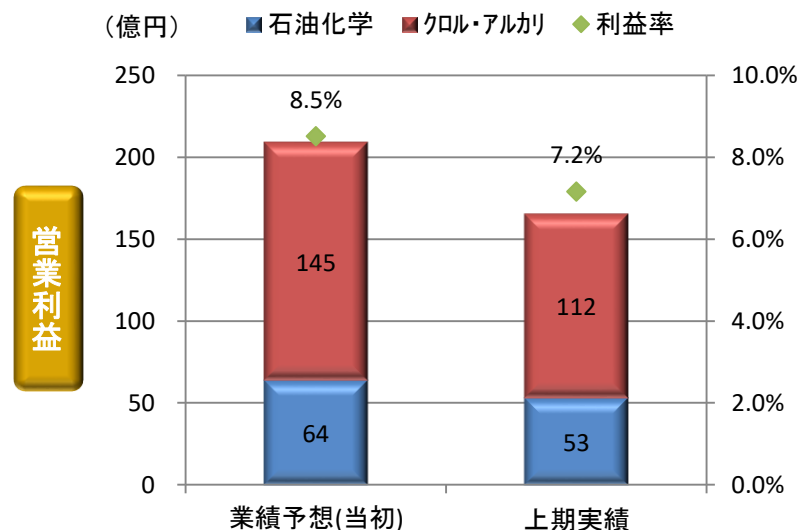
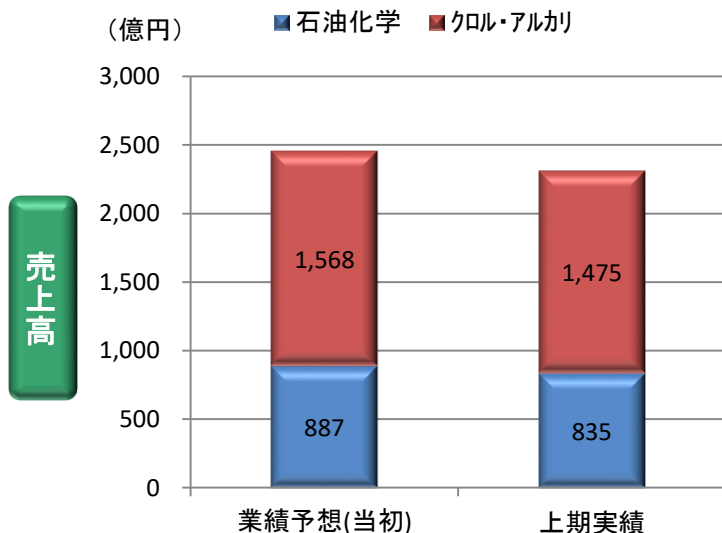
ナフサ価格の下落により売上高が減少、在庫の影響により営業利益も減少。出荷数量は堅調に推移。

《クロルアルカリ・石油化学全般》

為替の影響(ドル安、元安)により営業利益減少。主要コモディティ製品はフル生産フル販売。

＜市況前提＞

		18年度実績	業績予想	19年度上期実績
ナフサ	円/KL	49,400	46,000	42,750
PVC	\$/T	888	800-900	838
液体苛性	\$/T	413	350-450	351
MDI(モノ)	\$/T	2,788	2,200-2,400	2,173
MDI(ポリ)	\$/T	1,701	1,300-1,500	1,336
ベンゼン	\$/T	745	600-700	651



1-4. 2019年度上期実績／スペシャリティ

《バイオサイエンス》

計測・診断事業ともに堅調に推移。為替の影響により売上高は減少したが、営業利益は当初予想を達成。

《有機化成品》

有機化成品事業は、需給バランスの悪化継続によりエチレンアミンの営業利益減少。臭素関連製品は引き続き堅調に推移。

《高機能材料》

半導体需要の停滞により石英ガラス製品の売上高・営業利益が減少。シリコニアは、装飾用途向け出荷数量減少も歯科材料用途は堅調に推移。

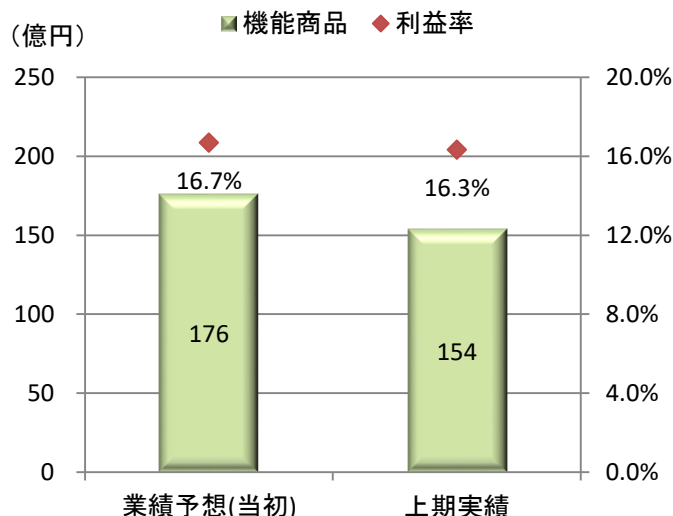
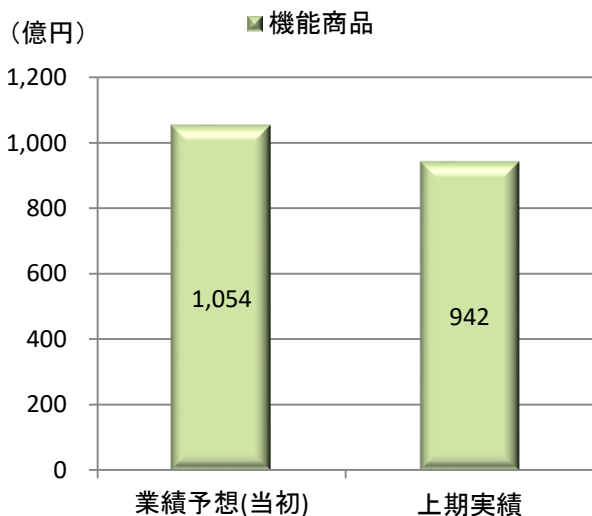
《スペシャリティ全般》

為替の影響(ユーロ安、ドル安、元安)により営業利益減少

＜売上高推移＞

(億円)

	2018年度		2019年度 上期	
	上期	下期	予想	実績
バイオサイエンス	217	208	227	220
有機化成品	232	238	248	232
高機能材料	536	544	579	490
機能商品計	985	990	1,054	942



1-5. 2019年度通期予想

〈業績予想比較〉

- ・ コモディティ : 製品市況の停滞継続 (販売価格下落)
- ・ スペシャルティ : 製品需要停滞の継続 (出荷数量減少)

(億円)

			2019年度				
			上期実績	下期新予想	通期新予想	当初予想	増減
売	上	高	3,964	4,036	8,000	8,600	▲600
営	業	利 益	404	436	840	950	▲110
経	常	利 益	419	441	860	1,000	▲140
純	利	益	268	302	570	670	▲100
前提	ドル	円/\$	108.6	105.0	106.8	110.0	▲3.2
	ユーロ	円/€	121.4	120.0	120.7	125.0	▲4.3
	ナフサ	円/KL	42,750	41,000	41,875	46,000	▲4,125

1-6. 2019年度通期予想(事業分野別)

〈業績予想比較〉

- ・ コモディティ : クロル・アリカリ製品は市況停滞継続による減収・減益
- ・ スペシャルティ : 石英ガラス製品等の出荷数量減による減収・減益

		2019年度					(億円)
		上期実績	下期新予想	通期新予想	当初予想	増減	
売上高	コモディティ	2,310	2,299	4,609	4,947	▲337	
	スペシャルティ	942	982	1,924	2,121	▲197	
	エンジン他	712	756	1,468	1,532	▲64	
	合計	3,964	4,036	8,000	8,600	▲600	
営業利益率	コモディティ	165 / 7.2%	232 / 10.1%	396 / 8.6%	497 / 10.0%	▲101 / ▲1.4%	
	スペシャルティ	154 / 16.3%	152 / 15.5%	307 / 15.9%	352 / 16.6%	▲45 / ▲0.7%	
	エンジン他	85 / 11.9%	52 / 6.9%	137 / 9.3%	101 / 6.6%	+36 / +2.7%	
	合計	404 / 10.2%	436 / 10.8%	840 / 10.5%	950 / 11.0%	▲110 / ▲0.5%	

1-7. 2019年度通期予想 / コモディティ

《クロル・アルカリ事業》

苛性ソーダ、MDIのアジアでの需要は下期も停滞すると想定し、販売価格を修正(売上高・営業利益減少)。

《石油化学事業》

石化関連製品は、原料ナフサ価格の下落により売上高は減少、在庫の影響により営業利益は減少。出荷数量は堅調に推移。

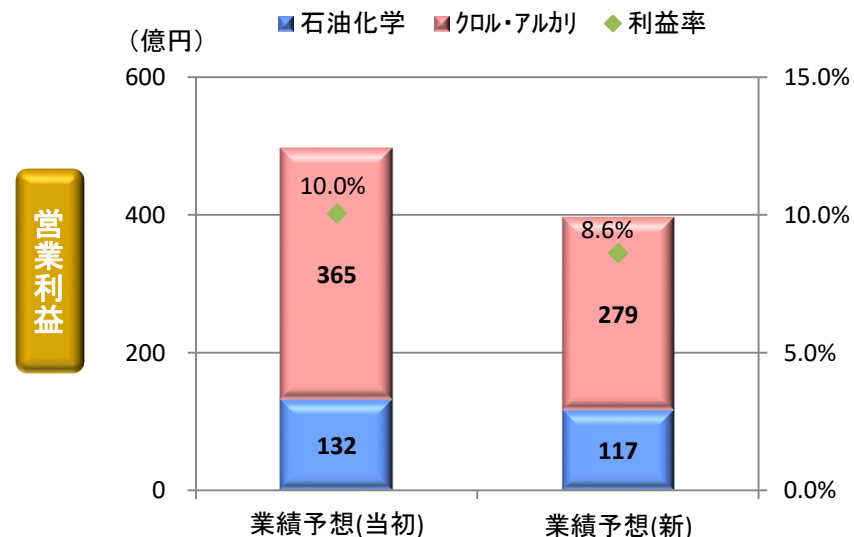
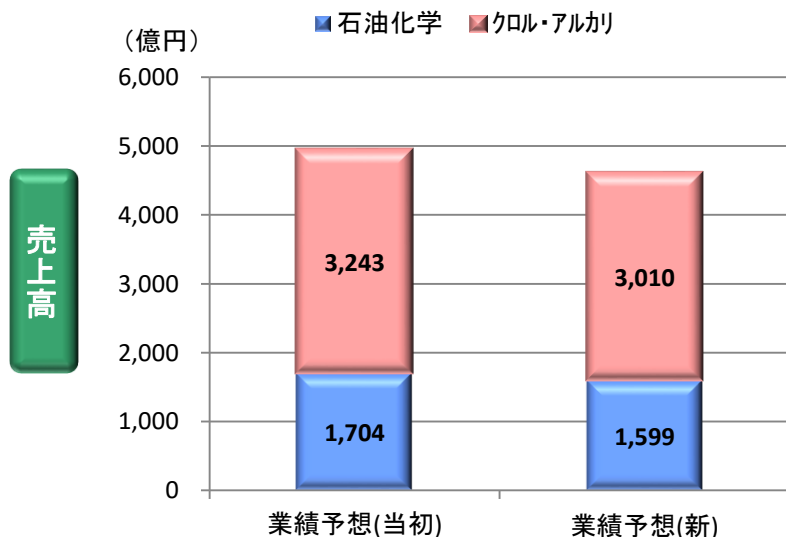
《クロアリ、石化事業全般》

為替の影響(ドル安、元安)により営業利益減少。

主要コモディティ製品はフル生産フル販売を継続。

＜市況前提＞

		業績予想 (当初)	19年度 上期実績	業績予想 (修正)
ナフサ	円/KL	46,000	42,750	41,875
PVC	\$/T	800-900	838	800-900
液体苛性	\$/T	350-450	351	300-400
MDI(モノ)	\$/T	2,200-2,400	2,173	1,800-2,000
MDI(ポリ)	\$/T	1,300-1,500	1,336	1,200-1,400
ベンゼン	\$/T	600-700	651	600-700



1-8. 2019年度通期予想／スペシャリティ

「戦略製品の拡販を継続して注力」

《バイオサイエンス》

- ・診断：中国・インド市場での拡販
- ・計測：バイオ医薬向けの品揃え拡充

《高機能材料》

- ・ハイシリカセオライト：市場ニーズに合わせて新グレードを継続投入
- ・ジルコニア：差別化グレード継続投入

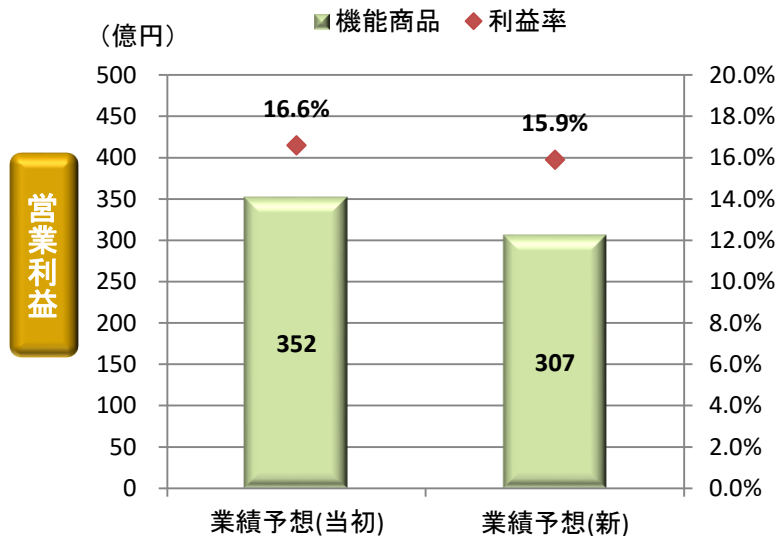
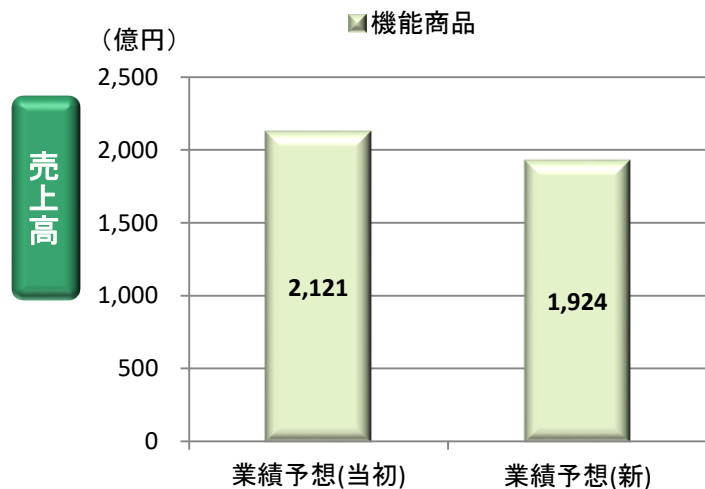
《有機化成品》

- ・エチレンアミン：ハイアミン化による収益改善
- ・臭素関連：生産設備の効率化投資

＜売上高推移＞

(億円)

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度	
			当初予想	修正予想
バイオサイエンス	421	425	449	436
有機化成品	477	469	514	477
高機能材料	973	1,080	1,158	1,010
機能商品計	1,871	1,974	2,121	1,924



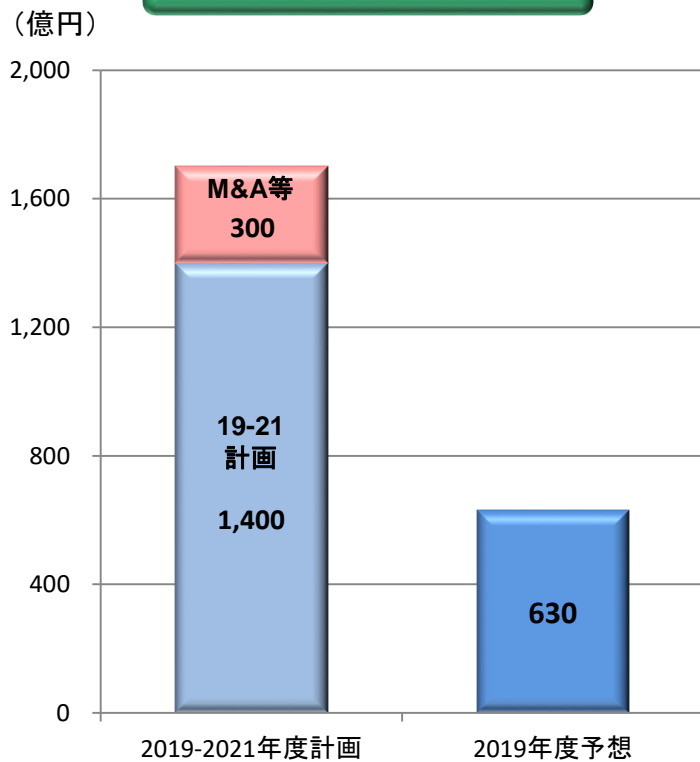
2. 設備投資・研究開発の状況

2-1. 投資状況

- 【コモディティ】 誘導品を含めた事業基盤の更なる強化
- 【スペシャリティ】 成長分野の生産能力増強
- 【M&A等】 M&Aはバイ材関連を中心に探索+α(クオアリ成長投資)

2019-21年度 投資計画

主な投資案件



<スペシャリティ>

- ハイシリカゼオライトの生産能力増強
- ジルコニアの生産能力増強
- クロロプレンゴムの生産能力増強
- 半導体関連製品の中長期的な需要拡大への対応

<コモディティ>

- ナフサ分解炉効率化 & ガスタービン設置
- 発電設備の効率化
- 高度さらし粉 S&B (東北東ソー)

<インフラ>

- 研究棟建替え (四日市、南陽)
- 総合物流倉庫の新設 (東ソー物流)

2-2. 研究開発

基本方針

- 「ライフサイエンス」「環境エネルギー」「電子材料」を重点を3分野に捉え開発加速
- MI技術構築による材料設計の効率化
- SDGsを踏まえた研究開発の推進

ライフサイエンス分野

- 計測・診断事業を拡大する新規製品の創出
- 自社技術の深化と外部技術導入による新事業の創出

《領域》 バイオ医薬品関連/バイオメディカル材料/診断・検査/ヘルスケア



環境エネルギー分野

- 低炭素社会実現に向けた独自製品・技術の創出
- 粉末冶金技術や有機金属錯体と外部技術活用による新材料の創出

《領域》 モビリティ用複合材料/エネルギー変換材料/電池材料/CO₂-海洋プラ対策技術



電子材料分野

- 有機化合物・ポリマー設計技術、デバイス評価技術を駆使した新規電子材料の創出
- グループ会社、産学官連携による先端技術・評価技術の獲得

《領域》 通信材料/半導体関連材料/プリンタブルエレクトロニクス材料/ディスプレイ用材料



3. 事業戦略について

基本方針:ハイブリッド経営による収益の安定・拡大

取り組むべき課題

- **スペシャリティ事業の拡大・成長**
 - 高機能化・新機能付与など新規・次世代グレードの開発
(バイオサイエンス、ハイシリカセオライト、ジルコニア)
 - 需要増に対応したタイムリーな生産能力増強
(石英ガラス製品、臭素関連)
 - M&Aによる事業領域の拡大
- **次世代の新事業の育成、新製品創出の加速**
(高分子メロセンポリエチレン、新機能高性能PPSコンパウンド、新規導電性高分子材料、アルデヒド補足剤)
- **コモディティ事業の更なる競争力強化**
 - ビニル・イソシアネート・チェーンの基盤強化及び高付加価値化
 - ナフサクラッカーの競争力強化及び誘導品の差別化・高付加価値化

3-2. 省エネ・CO₂有効利用の推進

取り組むべき課題

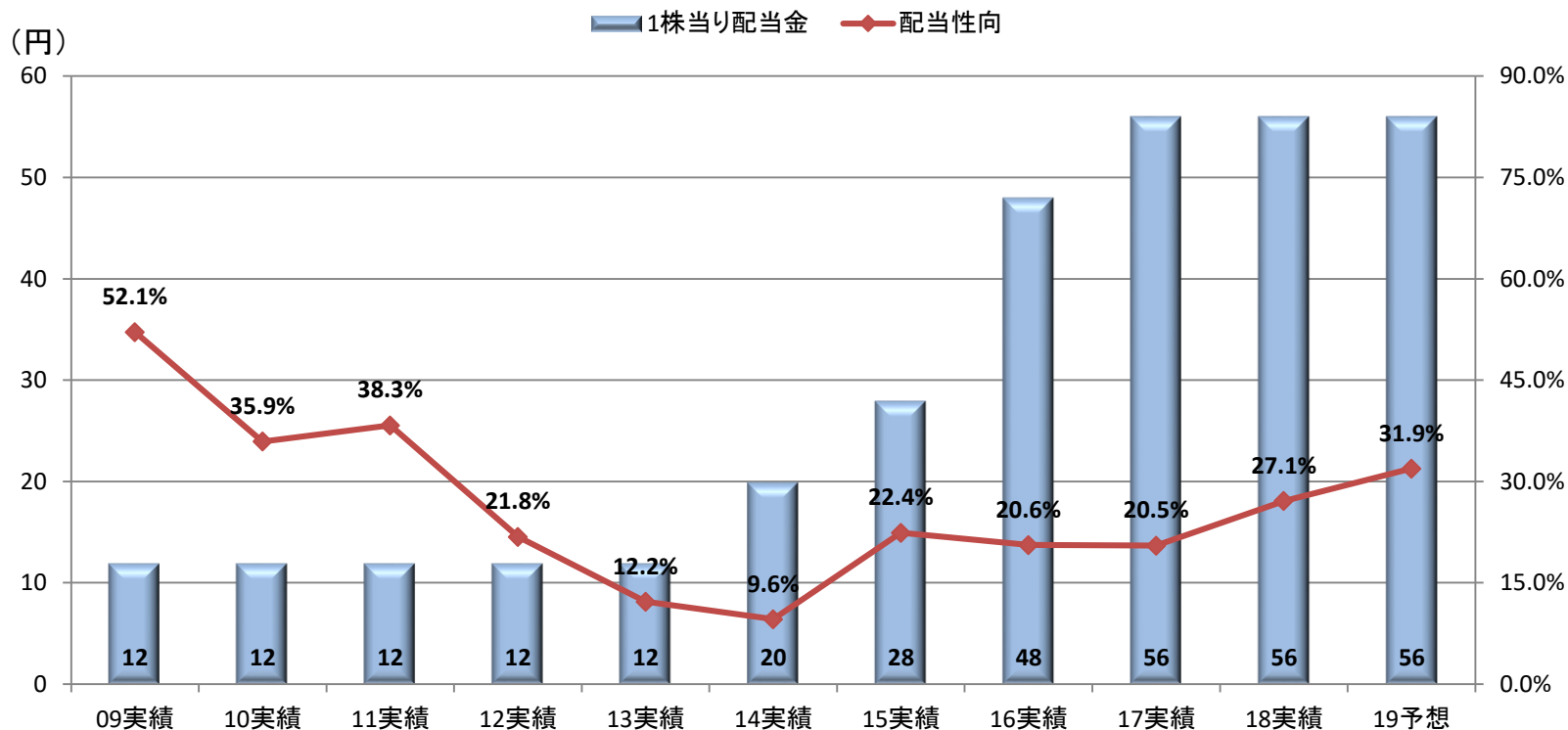
- **発電設備に最新技術導入で省エネ・CO₂削減**
⇒ 最新技術を導入したタービン・ローターへの更新計画を実行中
- **発電設備に高度制御システムを導入して省エネ・CO₂削減**
⇒ 最適負荷バランスシステムの導入計画を実行中
- **セメントプラントの廃棄物受け入れ設備を増設**
⇒ 廃プラ破碎投入設備の増設工事を実行中
- **発電ボイラでのバイオマス混焼による石炭使用料削減**
⇒ バイオマス混焼量を計画通り増加中
- **CO₂濃縮・精製技術の開発、CO₂原料化等の検討を本格化**
⇒ 産業技術総合研究所とCO₂のウレタン原料への変換を目指し、CO₂回収と有価物化の技術確立に向けた取り組みを開始
- **ナフサ分解炉効率化 & ガスタービン設置による燃料有効活用**
⇒ ガスタービンは工事完了(稼働中)、ナフサ分解炉は20年春に工事完了予定

4. 株主還元

4. 株主還元

- 安定配当の継続（期間業績・フリーCF・将来の事業展開等を総合的に勘案）
- 配当性向は30%程度を目安とする

2019年度配当額：中間 28円、期末 28円



※2017年10月1日に2株を1株に併合、併合前の1株当たり配当金は併合後の金額に置き換え

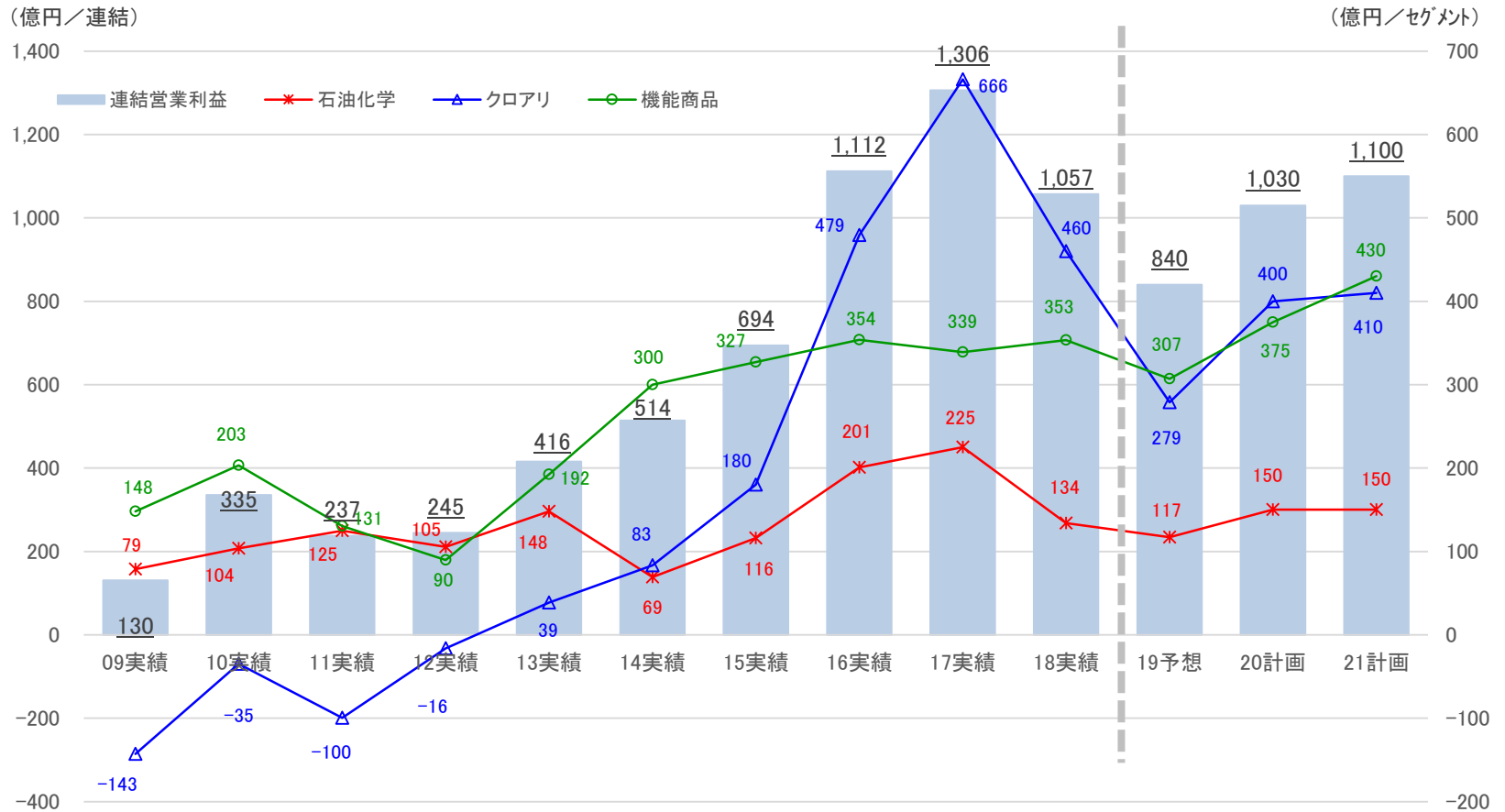
《注意事項》

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想です。

従いまして、今後の国内外の経済情勢や予測不可能な要素等により、実際の業績は計画値と大幅に異なる可能性があります。

(完)

(参考) 営業利益推移表





東ソー物流(株)総合物流倉庫(完成イメージ図)

四日市事業所 新研究棟

